

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001849		
法人名	株式会社 ケアフェリーチェ		
事業所名	グループホームやすらぎの里 中野新町		
所在地	愛知県名古屋市中川区中野新町三丁目51番地		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成25年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>行事や外出などを積極的に支援できるように努めている。 少しでもグループホームを知ってもらえるよう、地域の行事参加やホームのイベント参加を呼びかけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の中にホームが位置するが、かかりつけ医の医院も同じ区画内にあり、緊急時などの相談も行きやすい環境となっている。町内会の集まりにホームの代表として管理者が出席し、積極的に意見を求められる良好な関係が築かれている。毎日の散歩時には近所の方に積極的に話しかけ、近所のスーパー、商店、喫茶店によく出かける事で、利用者が一人で外出する際に、安全確保のための連携が行われている。掃除や食事の味付けに加わったり、巻きずしを一緒に作るなど利用者が参加できる家事に対する働きかけ、促しの場面が多く見られた。毎日の散歩以外に、季節を感じる外出企画、花見、盆踊り、夏祭りなどが行われ、ホーム内で行う焼肉、記念パーティーなども利用者の楽しみな企画となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と挨拶と助け合い 愛にあふれる中野新町作り」を理念とし、実践につながるよう努力している。散歩の際は挨拶を心掛けている。地域の方がホームに足を運んでくれるようにイベントの呼びかけをしている。	地域密着型のホームとしての独自の理念を職員で話し合っ決めて。全体ミーティングの際に、改めて理念を踏まえたケアができていないか確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の神社への散歩や清掃、月に数回出展するこの市へ出掛けたり、顔なじみとなった喫茶店への出入り、学区の敬老会や盆踊りへの参加。また、地域のボランティアの方々の訪問が、頻繁に行われている。	年1回の町内会の総会に参加し、散歩時に近所のスーパーや喫茶店に出かけ、地域との交流を深めている。定期的なフラダンス、落語などのボランティアの受け入れを通して地元の方との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(入居)相談などの際には、アドバイスや相談には乗っているが、事業所としての取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に六回、町内会長や地域の代表、家族、利用者代表の参加で開催している。会議では入居者の現状や様子、ホームの活動やイベント報告を行う程度で、活発な意見交換はない。	年に1回は平日の会議開催の日を設け、いきいき支援センターの方に参加してもらっている。ホームでの出来事の報告、利用者の近況報告を中心に行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所には介護保険の更新申請や、保護課へ生活保護者の手続きなどで訪問している。区役所主催の研修会に参加している。	ホームの空き状況や近況などを、申請で窓口を訪れた際に報告している。生活保護の方の受け入れを行っており、書類を毎月窓口を持って行くので、その機会に職員と話をし日頃から相談しやすい関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に人感センサーを設置し、8時45分から17時までの間は施錠せず、出入り自由である。ベッドからの転落が過去にある為、柵を使用している利用者がある。	職員は利用者の行動を抑制しないようにという事を常に頭に置いて行動するように指導されている。昼間は玄関の施錠をせず、センサーにより利用者の出入りを把握している。全体ミーティングで拘束についての認識を深める機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、熟知しているとは言えない。議題として全体ミーティングにて話し合うことはある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	親族による後見人や弁護士、権利擁護センターなどの支援を受けている利用者はいる。 職員全体では、制度の理解がなされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談や契約時に説明を行っている。また、必要に応じて書面などでお知らせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来所時に声をかける等して、状況を伝えながら、コミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。要望等があれば、要望に添えるよう取組んでいる。	家族の面会時に積極的に声をかけ、情報収集するよう心がけている。玄関の施錠時間を家族の意見も聞き決定した。散歩と一緒に掛かけたり、洗い物をしている時などの会話を通して利用者の要望を聞き出すように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回の全体ミーティングで、職員と意見交換を行っている。また、個人的に相談を受けている。決定事項は申し送りノートで周知し、業務に生かすよう努めている。	全体ミーティングで、テーマを提示して意見が言いやすい雰囲気作りを行っている。職員からケアマネへ利用者に対しての意見を伝え、ケアプランにも反映しやすい体制が構築されている。ケアマネと管理者の意思疎通も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、定例会議にて管理者から各種情報や報告を受けており、必要に応じて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会に加盟し、研修会に参加している。 問題があるときは、問題項目について内部研修で取り上げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県認知症グループホーム連絡協議会の研修の際に、交流をもつ機会があり、相互情報交換等をしている。 施設見学など相互行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の現地調査で情報収集を行い、本人とご家族と話す機会を設けている。利用者の安心につなげて行くように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にお話を伺い、現地調査や契約時にも要望を伺うようにしており、随時相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に意見やアドバイス等を伝えることはあるが、他のサービスとの調整は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共に過ごして行く為に、協力して出来る事は手を借り、出来ない事は共に行い、同じ時間を過ごすように努めているが、居室で過ごされる方が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際に、日頃の様子をお話したり、わからない事、疑問などを話し合える関係を築いているが、中には家族と疎遠になっている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者は、以前と変わらない様に馴染みの人や場所に接する機会はあるが、遠方の利用者には思い出話程度しか対応できていない。	友人の面会、電話をかけるなど、利用者が大切にしてる関係を継続できるように配慮しながら対応している。近所のスーパー、喫茶店などを利用し、地域の方と触れ合う機会を作り、入所してからのなじみの関係づくりにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に本人が望まない限り、利用者同士が自由に交流しあえるように支援しているが、あまり交流をしたがらない傾向にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係は、殆どの方が疎遠になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望には耳を傾け、把握に努めているが、職員は業務追われて叶えられない事が多い。 イベントとで実現出来るようには、努めている。	日々の関わりの中で会話や表情等で察したり、家族から聞いたりしている。また、入居時に生活歴や好きなこと等細かくアセスメントしており、それを考慮し本人本位に検討することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者、ご家族等にお話を伺い、アセスメントシートを利用して生活歴を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に見守りを優先するように努め、利用者と接しながらどのような状況か、どれ位の残存機能があるかの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に基づいて全職員が評価、見直しシートの情報を元に、介護計画を作成している。利用者に合わせて3~6ヶ月に見直し、変化があれば随時見直しがされている。また、利用者からの希望を聞き、ある場合は取り入れるようにしている。ご家族からの要望は殆どない。	計画についての評価を毎日行っている。午後の申し送りの後カンファレンスをおこない、見直しシートに記録している。医療申し送りノートとともに計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録に日々の様子や、ケアの検証を記録している。気付いた事など普段とは違う事に関しては、特記やケース記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画にない利用者のニーズを出来る限り叶えられる様に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や店舗等と顔馴染になり、声をかけて頂いている。 身だしなみとしての訪問美容、出掛けるのが困難な方への訪問歯科、マッサージ等は活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月二回の定期往診、及び緊急時の対応。 本人のかかりつけ医での受診は、ご家族に協力を求め、入居の際には協力医か、かかりつけ医かを相談している。	協力医にはいつでも相談ができ、他医療機関の勧めや紹介状の対応をしてくれる為、利用者はいつでも適切な医療が受けられるような支援ができています。家族対応の際には、お薬手帳の活用や受診報告を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週三日勤務しており、健康上の問題は相談している。緊急時等も電話で指示を仰ぎ対応している。必要に応じて病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に利用者の情報を提供し、医師や家族、職員で話し合いながら早期退院できるよう勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族の意向を確認し、医療関係者との連携を図っている。緊急時の場合には、夜間でも協力医が駆けつけてくれる。家族、医師、看護師の協力の下、状況に合った利用者への支援を見極め、チームで支援を行っている。	入居時に重度化の指針についての書面を渡し説明している。全体ミーティングにて全職員で話し合い、更に看護職員から対応についての話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内に緊急連絡表があり、掲示している。 応急手当や訓練などは一部の職員は、対応できるが、全職員とは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や意見交換を行う事はあるが、全職員が参加しているわけではない為、全職員が身に付けているとは言い難い。 災害時に必要な物品を備蓄している。	今年度は夜間を想定した訓練を1回実施し、消防署に避難場所等の相談や確認をおこなった。3日間分の備蓄をホーム内に保管している。開設当初は地域指定の避難場所の公園まで避難したこともあるが、最近は行われていない。	年間行事計画に避難訓練を入れ、職員や利用者参加での訓練の実施を検討してもらいたい。また、利用者の状態変化に応じた避難方法について、職員で話し合うことを希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷付けない様に意識して声かけをするように努めている。それが守られていない時は、全体ミーティングにて話し合いをしている。	利用者の人格を尊重するよう日々、職員同士で注意し合っている。また、全体会議の中でも確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者は、希望等を表したり出来ている。職員からの働きかけという点では、半数程度。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるように支援しているが、職員の業務を優先してしまう事も多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に選択が出来る方は、職員と服を選んだりしている。出来る限り、身だしなみを整えるように努めている。髪型などは、本人の意思表示があれば、カットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力を活かしながら、片付けと一緒にに行っている。また、一緒に買い物に行き、自ら食べたい物を購入されている。個別メニューは無いが、同じ食材で食べやすい物を提供している。	献立等に利用者の希望を取り入れている。買い物に出かけた際に利用者が自分で食べたい菓子等を購入することもある。誕生日にホールケーキを用意したり、ホットプレートを利用してお好み焼きやハンバーグ等を調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は全利用者チェックしており、水分チェックは必要な方のみ行っている。食事のバランスは考えているが、栄養バランス等は考慮するまでに至っていない。食べる量は個々に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩、声かけや介助にて行っている。自ら昼食後も行う方はいる。訪問歯科にて必要な方は、チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。個別にトイレチェックを行っている。 リハビリパンツから布パンツに戻った方もいる。	介助を必要としない人が3名ほどいる。排泄時の声掛けを工夫したり、利用者の動きを見てトイレ誘導のきっかけをつかんでいる。全体ミーティングや申し送りの際に声のかけ方について話し合い、統一した声の掛け方に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを多く取り入れているが、改善されない方は、医師や看護師の指導の下、薬を服薬している。 散歩なども取り入れているが、職員の都合で行けない事がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、午後より入浴可能である。利用者の意向に沿った時間帯に入浴することは、余り行われていない。自分の意思の無い方は、入浴期間が空いてしまうことがある。	介助が必要な利用者は日中に入浴してもらい、介助なしで入浴できる利用者は夕食後に入浴してもらうように働きかけている。そうすることで、それぞれがゆっくり入浴できている。入浴時間に配慮し支援している。	ゆっくり入浴できるよう配慮することも大切だが、利用者の希望も考慮し支援できるよう心掛けて欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の意向に沿えるように、休んで頂いている。自分の意思の無い方は、様子を見て休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	普段服用している薬は、処方箋で確認出来るようにしてあるが、全職員が把握しているとは思われない。 新しく処方されたものは、記録や申し送りノートで全職員が確認できるようにはなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ちたがらない方が多い為、家事など一緒にやる事は限られた利用者のみとなっている。気分転換も一部に限られている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のスーパーへ出掛けたり、二の市で買い物したりと、近所であれば希望に添えるように努めている。普段行けない場所は、イベントなどを利用して出掛けられるように努力している。家族の協力でも支援される場合はある。	散歩は天候や気候によって出かけないこともあるが、利用者の希望にそった外出支援をしている。家族が外食や墓参りに連れて行っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は財布を所持して管理しており、出来ない方は買い物の際のみ財布を渡し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はリビングカウンターに設置しており、自由に使えるようにして為、実際に使用している方もいる。使えない方は職員がかけて取り次ぐ場合もある。年賀状や手紙など出せるように支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓やソファでくつろげるように配慮している。 クリスマスや正月などの飾り付けをして、季節感を味わえるよう工夫している。	リビングは日当たりが良く明るく、ソファが置かれ寛ぐことができる。居室で過ごすよりもリビングで過ごす利用者が多い。台所の流し台等は低めの設計で、利用者が使いやすいよう配慮されている。時計の位置も利用者の希望で見やすい位置に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特にしていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持ち込んでもらい、心地よく過ごせるようにしている。 イベントなど作った作品などを飾っている方もいる。	ベッドは持込みの為、木製や介助用等それぞれが使い勝手の良いものとなっている。ソファやテレビが置かれ、居室で寛ぐ利用者もいる。思い出の写真を壁に飾る等それぞれが居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札をかけ、トイレには張り紙をする事で、少しでも混乱しないよう配慮している。脱衣所に手すりを追加したり、安全面にも配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371001849
事業所名	グループホームやすらぎの里 中野新町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	年2回、「0の日」に1号線での朝の旗持ち当番を利用者とともに参加している。学区の運動会を見学したり、地域の盆踊りなどの行事にも参加している。フラダンス、落語などのボランティアを受け入れ、利用者が楽しめる企画を行っている。近所の方がお手伝いをさせて欲しいと申し出ていただいた事もあり、日頃の活動で地域にも存在が認知されている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	民生委員、町内会長、地域の代表者等が出席している。家族やたくさんの方に参加してもらいたいとの思いから日曜日の開催としているが、今年度は1回平日に開催し、いきいき支援センターの職員に参加してもらった。ホーム内の様子や利用者のお手伝いを報告している。地域との関わりに対する助言をホーム側から質問し、今後の取組みに活かせるよう検討している。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	ホームの空き情報や近況など、申請等で窓口を訪れた際に職員と話をする機会を作り、日頃から相談しやすい関係となるよう努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	「やすらぎ新聞」を毎月発行している。利用者の様子や行事の写真などを掲載し、次回の行事参加の呼びかけなどを行っている。家族の面会時に職員の方から声を掛け広く意見を聞き取っている。利用者からは普段の何気ない会話から、要望を聞き出し実現に向け前向きに取り組んでいる。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	×	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。